日野自動車の成長に向けての取り組み

2011年1月20日

日野自動車株式会社

将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。

インサイダー取引に関するご注意：
企業から直接、未公表の重要事実の伝達を受けた投資家（第一次情報受領者）は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています（金融商品取引法１６６条）。
同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公表してから１２時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法（TDnetの適時開示情報閲覧サービス）により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。

【本日の内容】

日野自動車の成長に向けての取り組み

１)環境認識

２)目指す方向

３)成長に向けた施策

（１)海外軸足の事業構造改革

（２)環境課題への対応

1)環境認識

＜市場環境＞

◆世界経済はアジアを中心に回復途上
（日米欧は回復に時間を要する）

◆為替の影響（円高）、材料市況の高騰

◆新興国へも広がりを見せる環境対応強化

＜競争環境＞

◆欧州勢もアジアあるいは南米事業を強化

◆中国・韓国勢とのASEANをはじめとする新興国での競争激化

↓

厳しい経済環境の中、大競争時代に突入

２）目指す方向

＜日野の目指す方向＞

商用車らしいCS（お客様満足）で勝つ

・市場適格商品とサービスの提供

・日野ブランドを支える品質の維持・向上

・お客様のニーズにスピーディーに対応（短納期の実現）

＜日野の課題＞

～大競争時代を生き抜くために～

（１）海外軸足の事業構造改革
（２）環境課題への対応

３)成長に向けた施策

（１）海外軸足の事業構造改革

①商品・サービス

グローバル市場の様々なお客様のニーズに
きめ細かく応える商品・サービスの提供

②ものづくり

多品種少量生産を効率的に実施するための
ものづくりの改革

③グローバル生産体制

完成車主体からKD主体の生産体制の実現

（２）環境課題への対応

・新小トラHV

CO_2削減に向け、商用車ハイブリッドの普及を目指す

①商品・サービス

＜商用車らしいCS(お客様満足)の追求＞

Q．D．R（品質・耐久性・信頼性）の追求が基本

■商品

・市場適格車の提供

・先進技術の追求

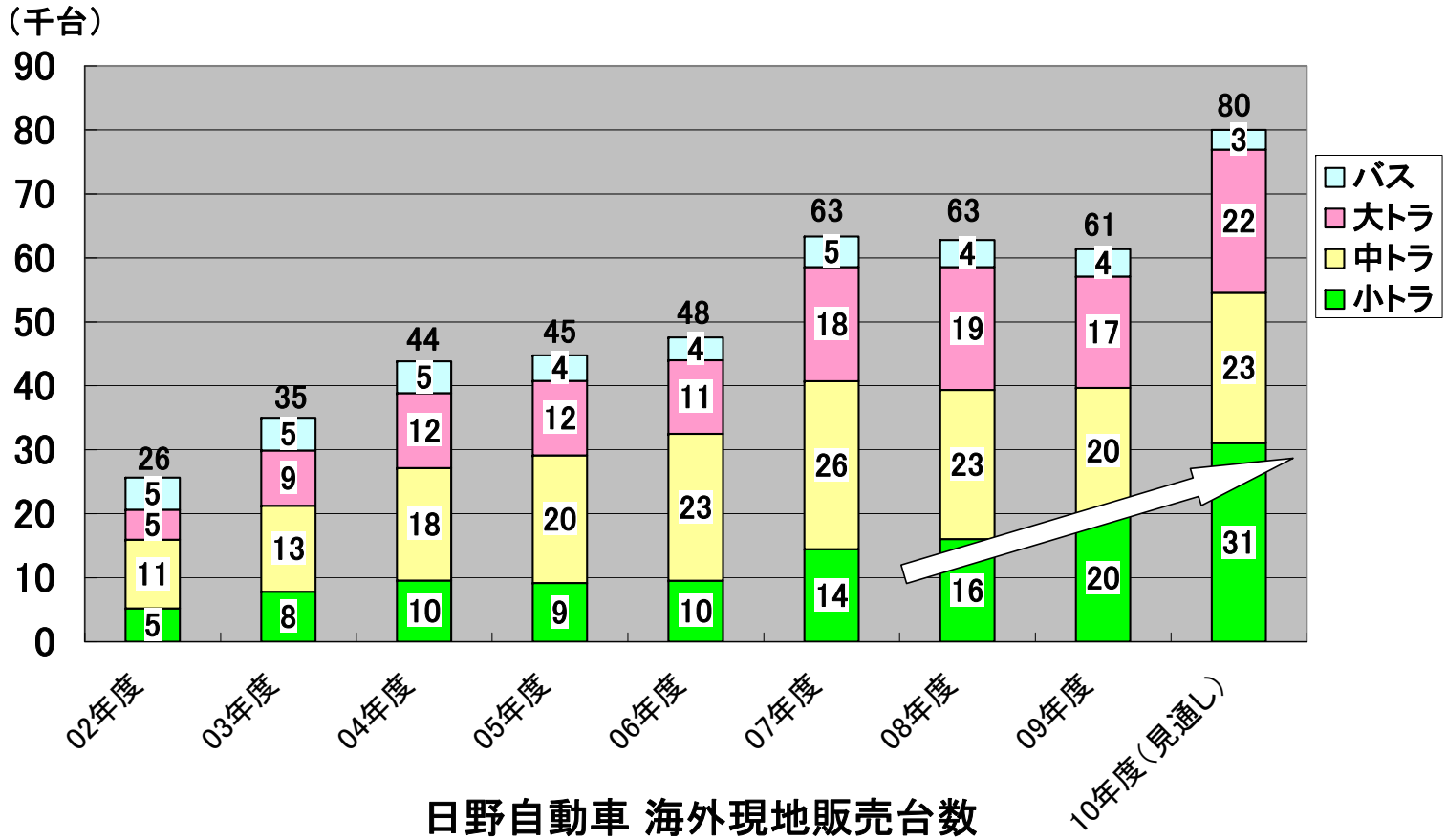
■サービス

・トータルサポート体制の充実で、
お客様のアップタイム最大化を目指す

①商品・サービス

＜商品力の強化＞

◆大・中・小トラとも市場適格、用途適格を追求していく
◆小トラのグローバル戦略車を発表予定(１１年春)
　⇒ 各地域に市場適格車を展開



日野自動車 海外現地販売台数

①商品・サービス

＜市場適格車＞ 小型トラックから超大型トラックまで

■インドネシア 小トラ

・2009年12月生産開始

・現地ニーズに合わせた使い勝手の良さと、価格設定で好評
（フレーム補強、水洗いできるシート 等）

・今後インドネシアからの輸出も検討中

■重量物運搬専用車（用途適格の追求）

・お客様要望を受け、新たに＊GVW48t クラスの車両を開発（＊日本単車上限25t）

・2011年2月、インドネシアで納入を開始

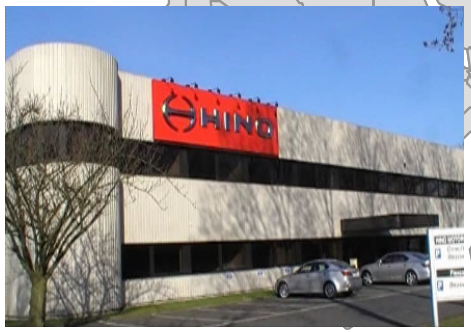
①商品・サービス

＜トータルサービス＞

◆市場に合ったサービス(整備)対応
・各市場ニーズに合ったサービス体制強化
・地域に密着した教育と代理店向上支援

◆市場に合った補給部品の供給
・地域適格補給部品の提供
・最適物流によるスピーディな部品供給

HMM(米国)部品デポ



HME(ベルギー)
部品デポ

中近東研修センター

パナマ研修センター

３)成長に向けた施策

（１）海外軸足の事業構造改革

①商品・サービス

グローバル市場の様々なお客様のニーズに
きめ細かく応える商品・サービスの提供

②ものづくり

多品種少量生産を効率的に実施するための
ものづくりの改革

③グローバル生産体制

完成車主体からKD主体の生産体制の実現

（２）環境課題への対応

・新小トラHV

CO_2削減に向け、商用車ハイブリッドの普及を目指す

②ものづくり

＜ものづくりの仕組み改革の必要性＞

商用車ビジネスの特性

◆働く車として地域ごとに多種多様なニーズ(用途ニーズ)がある

◆一国ごとの市場規模が小さい(乗用車の1/16程度)

↓

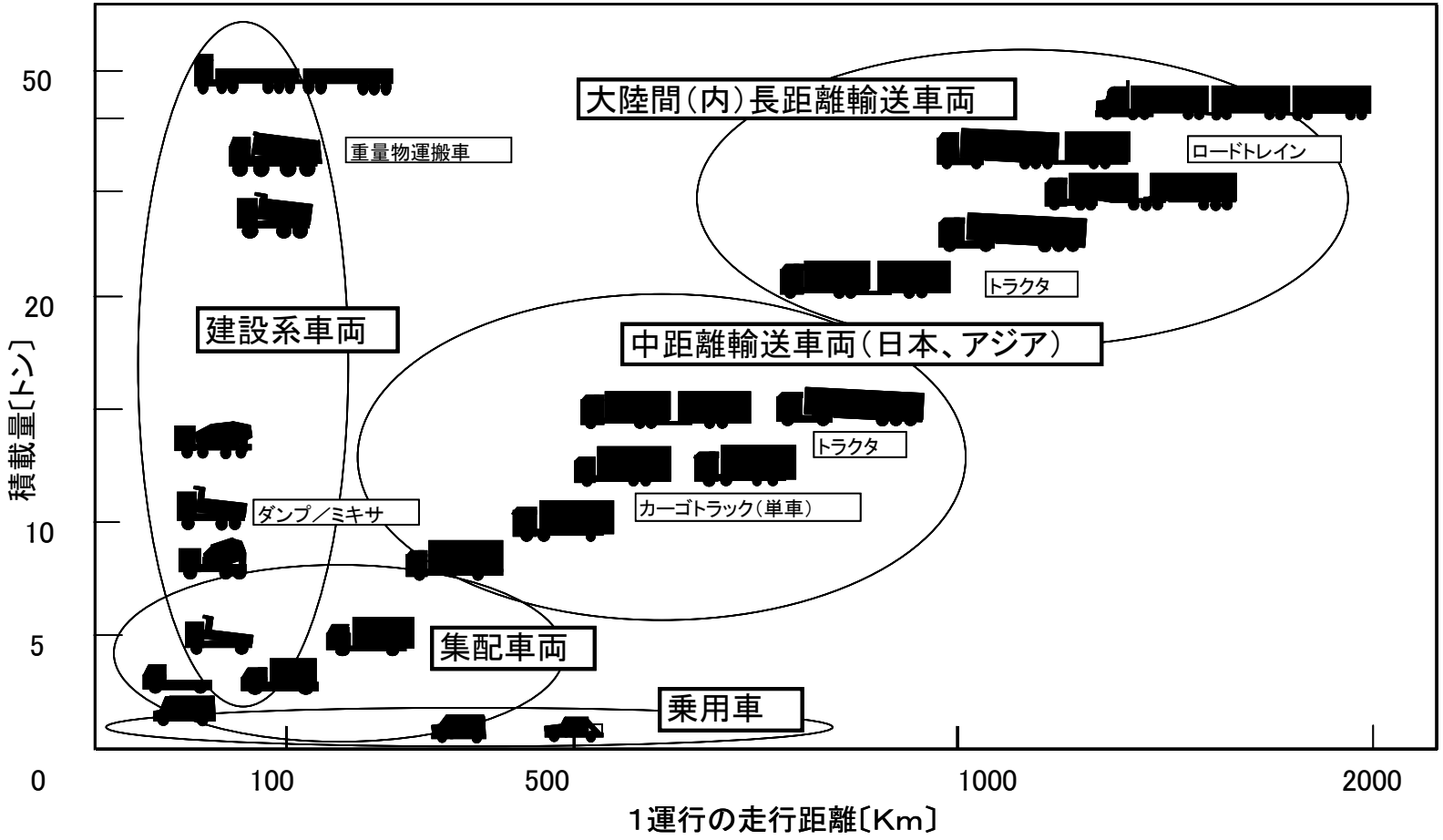
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ競争力の確保

◆顧客ニーズに対応する「多品種少量」生産の効率的実施

◆生産投資の集中と分散⇒KD生産を前提とした生産効率化

②ものづくり

◆商用車のお客様のニーズ　→バリエーションが非常に多い
　お客様ニーズ＝使用目的(運ぶ物)×使用方法(運び方)
◆海外展開の進行によりさらに、ニーズは多様化、
　バリエーションが増大

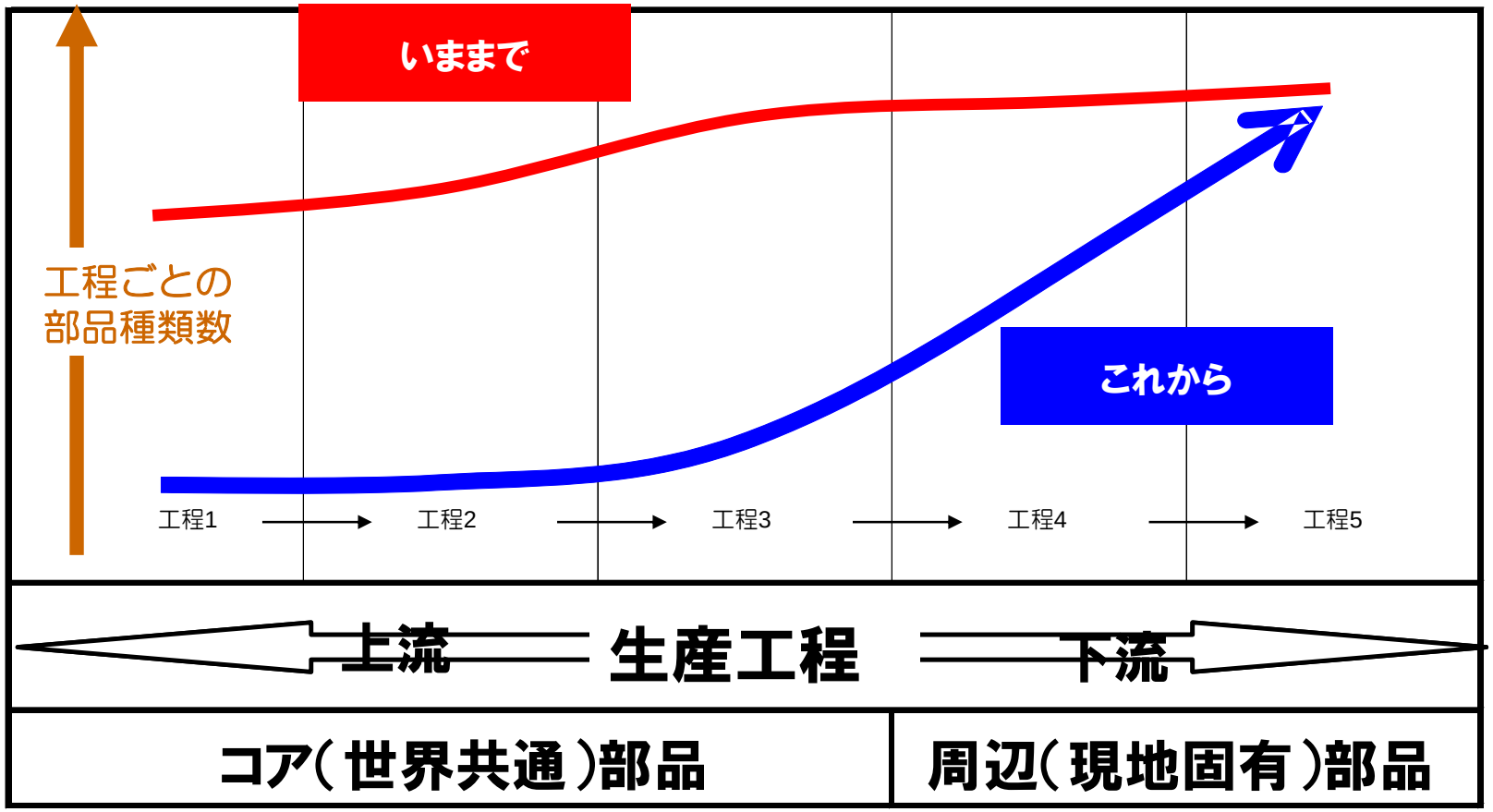


お客様ニーズに応える為のものづくり改革を行う

②ものづくり

＜効率的商品提供の考え方＞

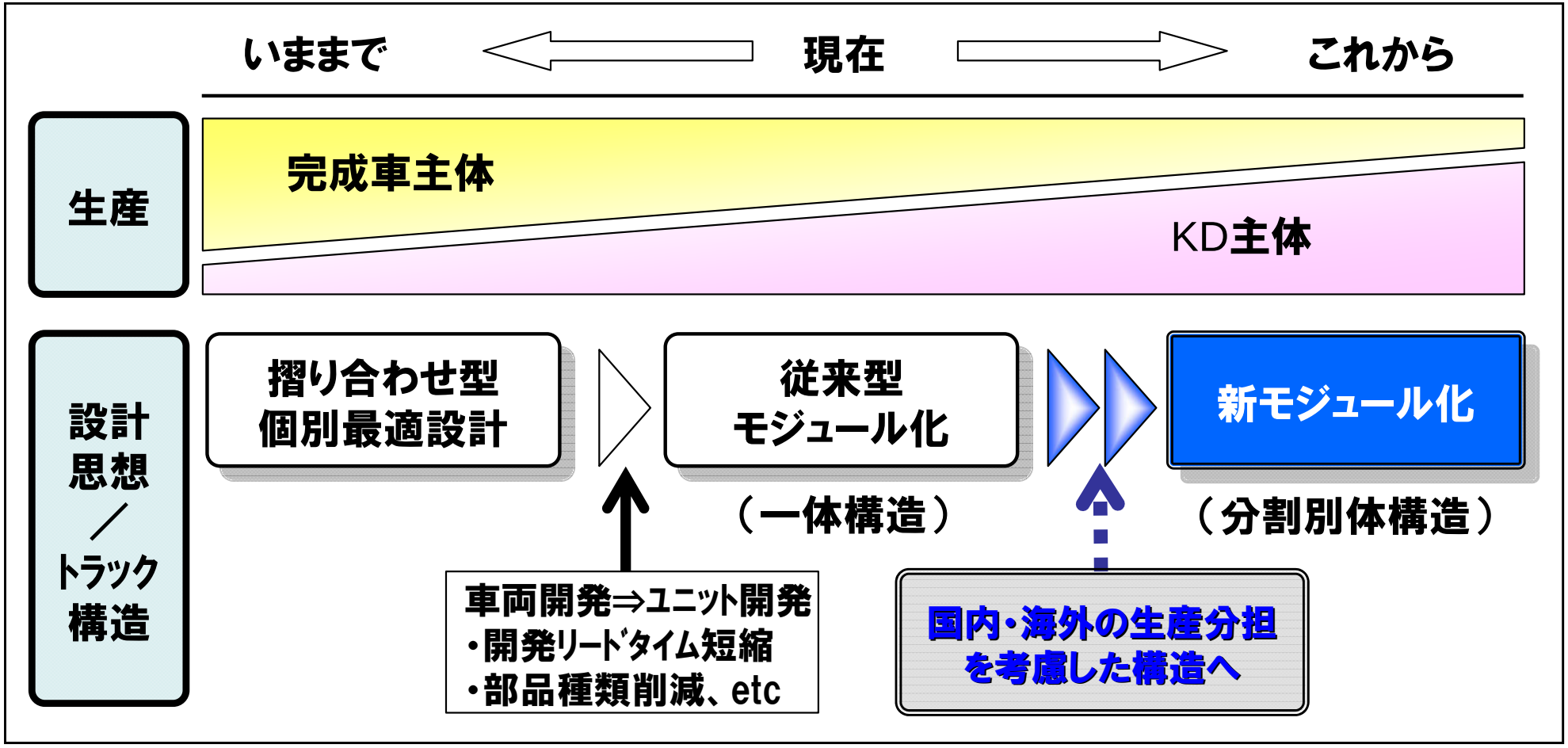
◆世界共通部品の種類数は大幅に削減し、お客様の近くで種類を増やすことにより、車型数(=お客様のニーズへの対応)は減らさない



②ものづくり

＜トラックの作り方の変革の考え方＞

◆現地生産・現地開発に柔軟に対応することでKDにより適した構造へ
◆多品種少量のトラックを短いリードタイムで供給する構造・プロセスへ



３)成長に向けた施策

（１）海外軸足の事業構造改革

①商品・サービス

グローバル市場の様々なお客様のニーズに
きめ細かく応える商品・サービスの提供

②ものづくり

多品種少量生産を効率的に実施するための
ものづくりの改革

③グローバル生産体制

完成車主体からKD主体の生産体制の実現

（２）環境課題への対応

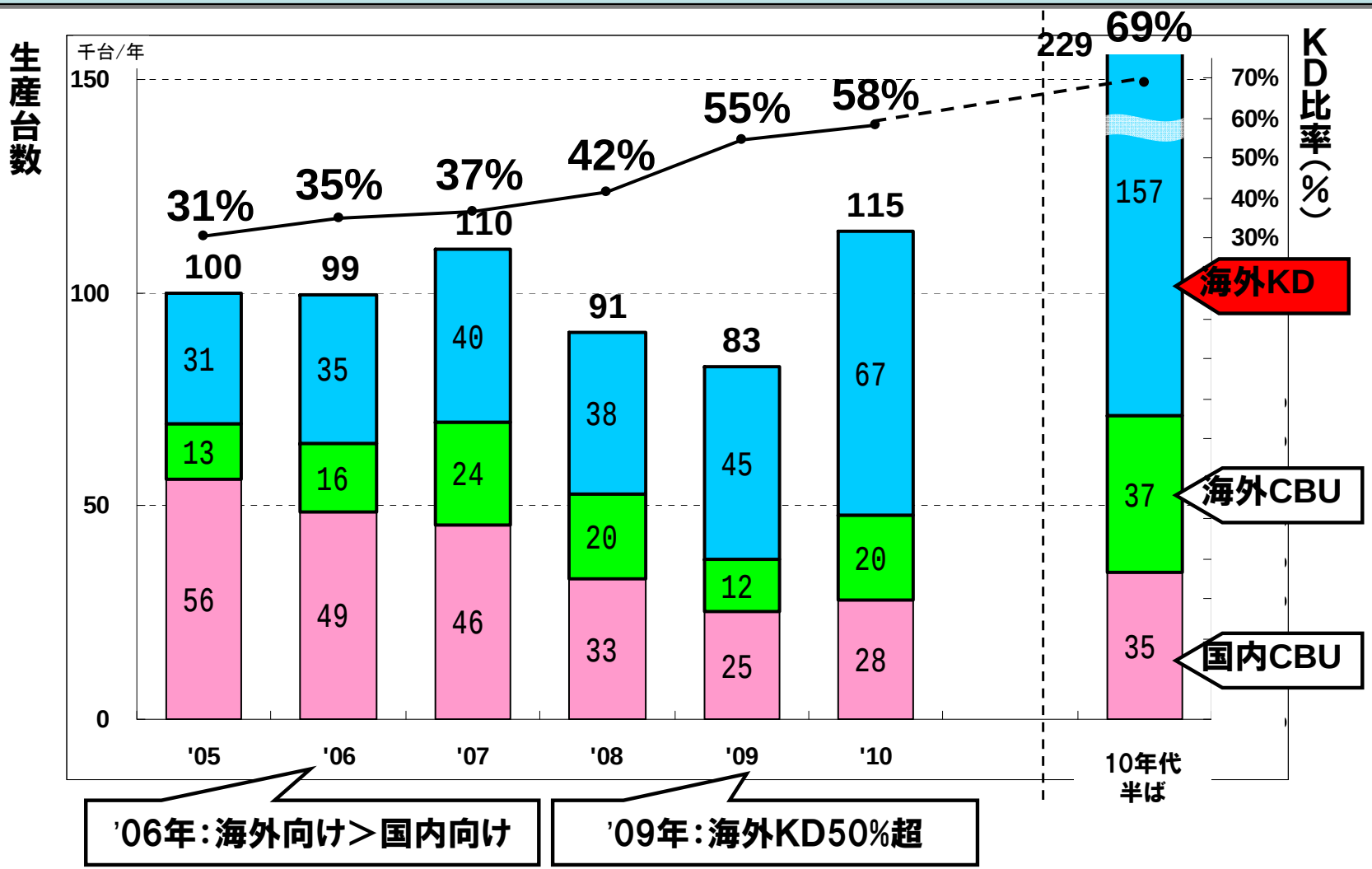
・新小トラHV

CO_2削減に向け、商用車ハイブリッドの普及を目指す

③グローバル生産体制

＜海外向けKD(ノックダウン)生産の増加＞

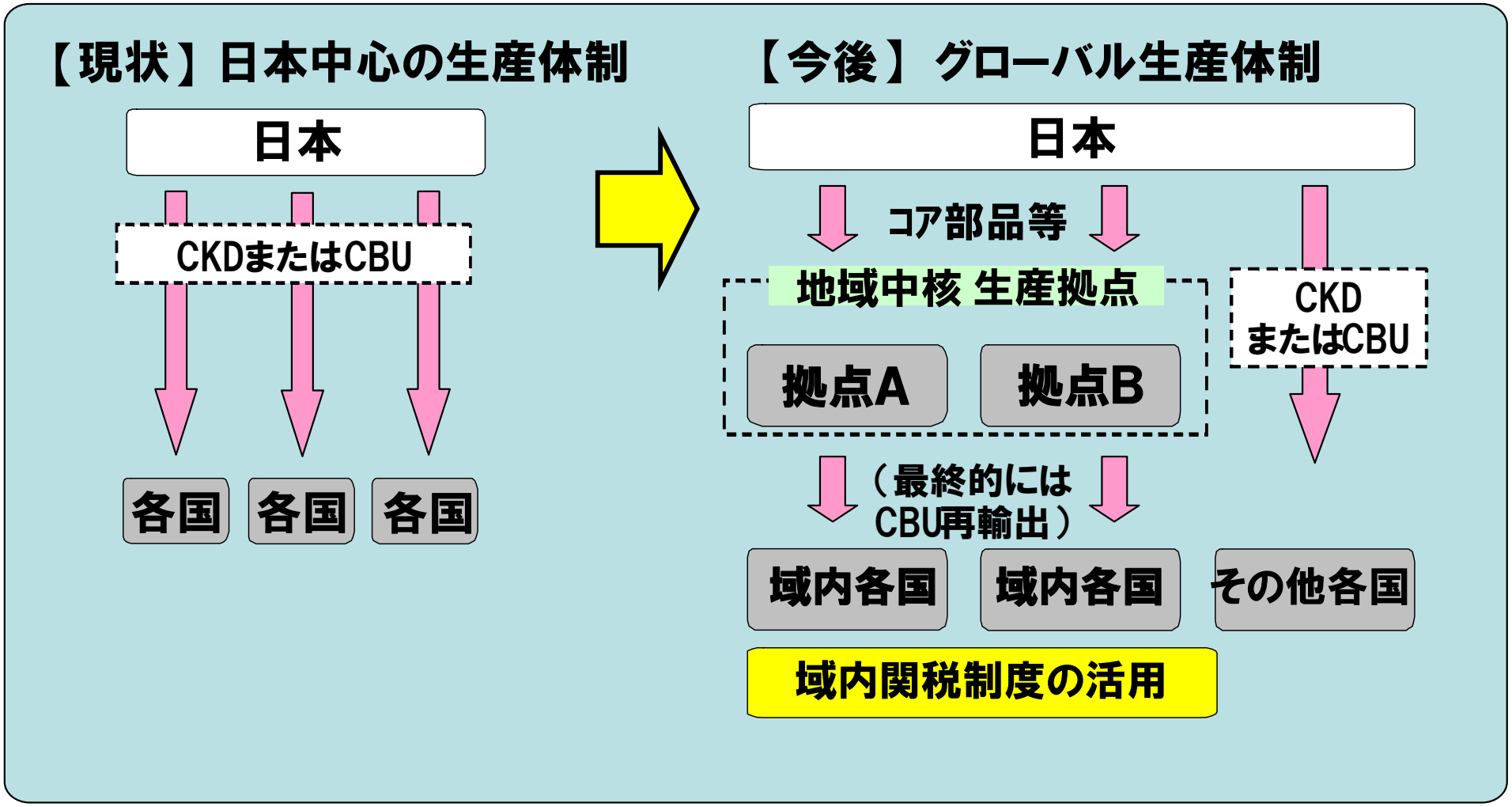
◆06年には海外向けが国内向けを逆転、09年にはKDがCBUを逆転
◆今後も増加していく海外向けKDに対応していくことが必要



③グローバル生産体制

＜日本中心の生産体制→グローバル生産体制へ＞

◆日本工場の新たな位置づけと海外中核生産拠点の構築



③グローバル生産体制

＜茨城新拠点の位置づけ＞

◆海外での販売増に応えられる日本工場の能力確保
- ・KDを中心とした供給量増加への対応
- ・世界の市場に最短のリードタイムで供給

◆生産の現場として「日本ならでは」のものづくり技術の追求

↓

＜新工場＞

◇最新技術を追求し「ものづくり改革」を具現化する場
◇環境にも考慮した「革新ライン」を実現
◇具現化したものづくり技術を世界に展開するマザー工場

③グローバル生産体制

＜茨城新拠点について①＞（今後のスケジュール）

◆日野工場内のKD工場の移転を最優先に進める

目標：2012年春稼動開始

KD工場移転

KD部品・ユニット梱包

コア部品製造

アクスル等

目標：2020年迄に開始

車両組立

日本向け、海外向け完成車
（大中トラック）

③グローバル生産体制

＜茨城新拠点について②＞（立地）

◆工場間物流を考慮した新工場予定地

③グローバル生産体制
＜茨城新拠点について③＞（立地）

住所：茨城県古河市名崎
土地面積：65．9万m²
（参考：日野工場エリア面積30万m²）

３)成長に向けた施策

（１）海外軸足の事業構造改革

①商品・サービス

グローバル市場の様々なお客様のニーズに
きめ細かく応える商品・サービスの提供

②ものづくり

多品種少量生産を効率的に実施するための
ものづくりの改革

③グローバル生産体制

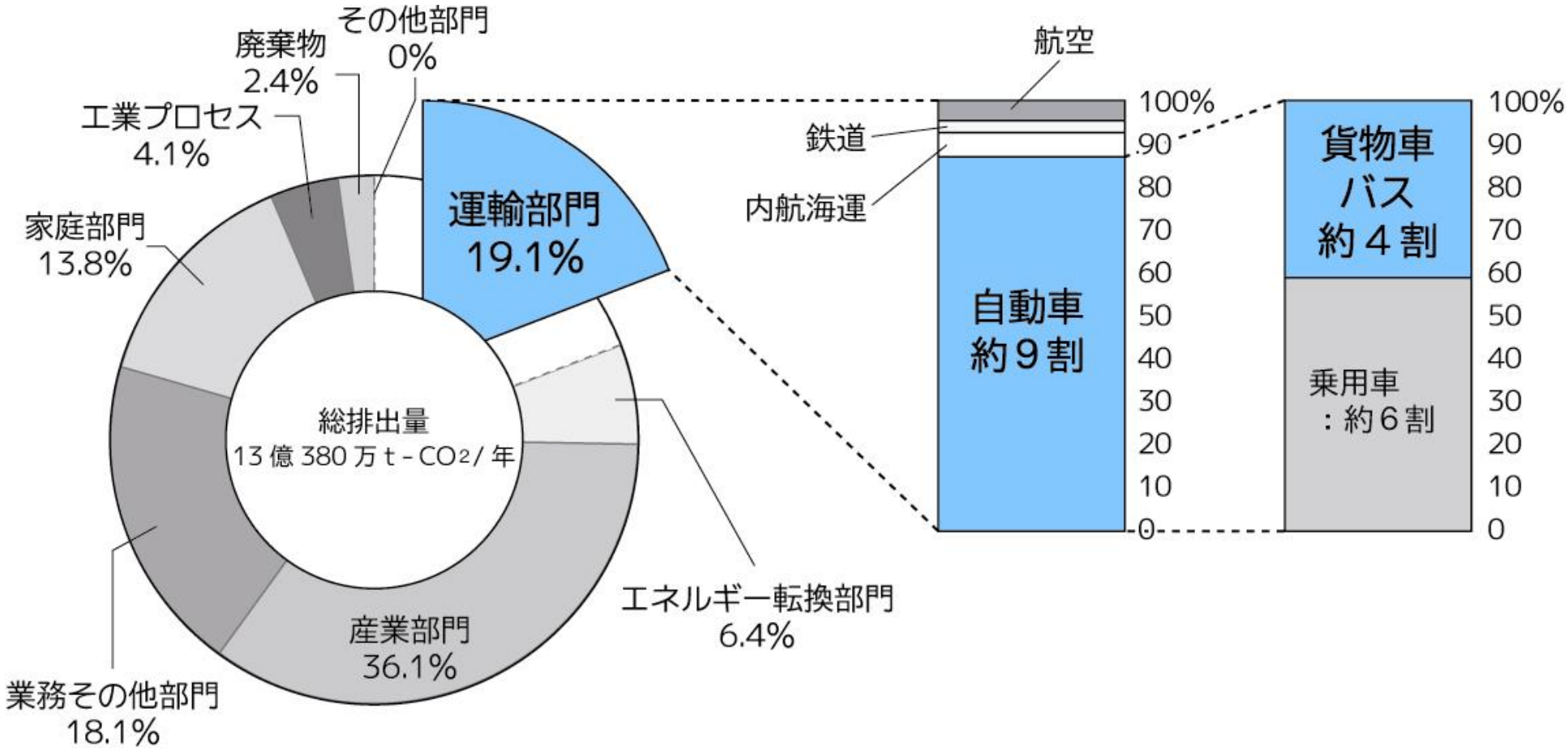
完成車主体からKD主体の生産体制の実現

（２）環境課題への対応

・新小トラHV

CO_2削減に向け、商用車ハイブリッドの普及を目指す

＜商用車への環境対応要請(日本の例)＞



部門別 CO_2 排出量内訳（2007 年度）　　運輸部門 CO_2 排出量内訳（2007 年度）

出典：国立環境研究所　温室効果ガスインベントリオフィス

＜CO_2削減に向けた取り組み＞

CO_2削減

低公害車の導入

Hybrid

省燃費運転支援ツールによるエコドライブ推進

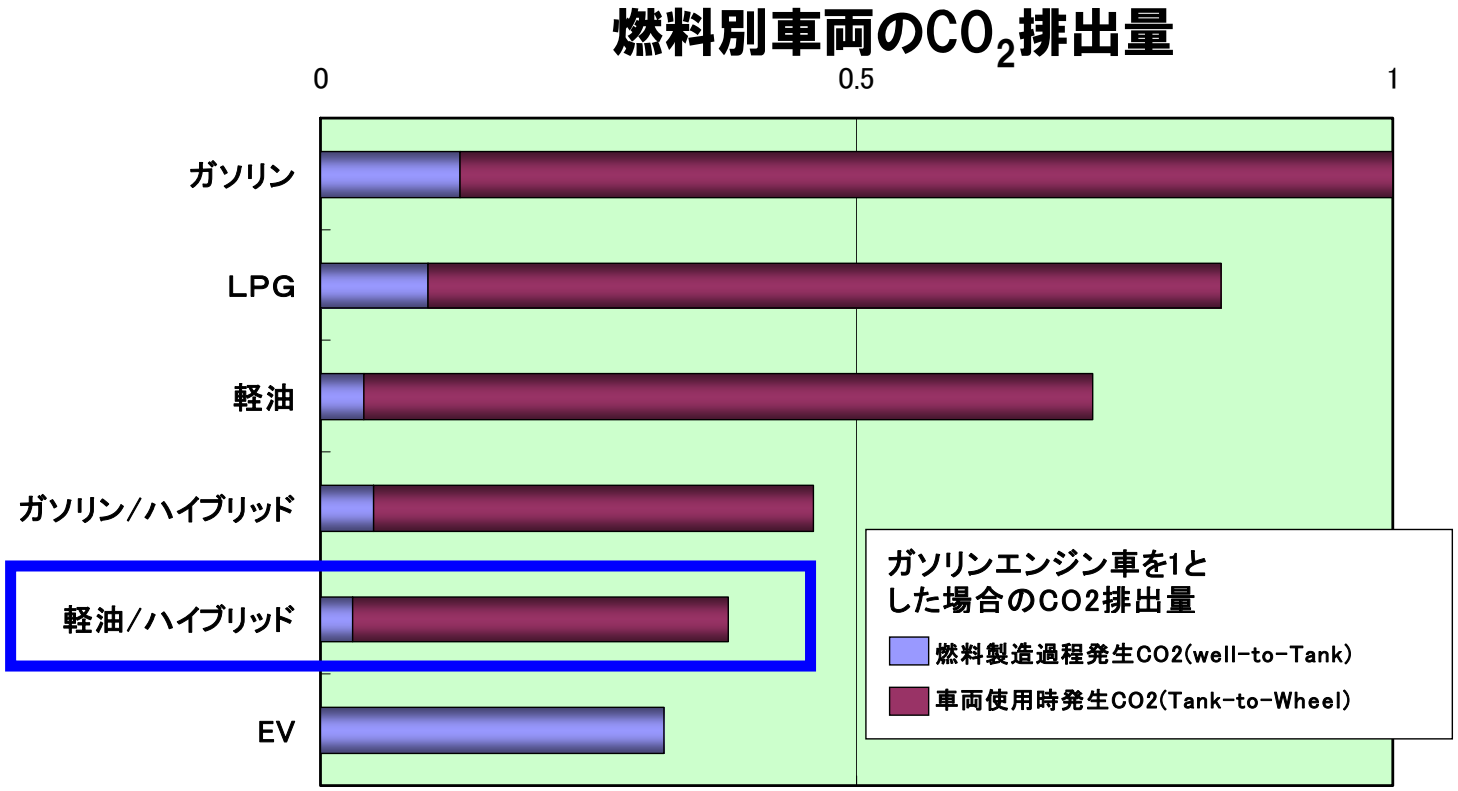
輸送効率化の促進

高速道での速度抑制

アイドリングストップ

＜燃料別車両のCO_2排出量＞

◆商用車としてはディーゼルハイブリッドがふさわしい

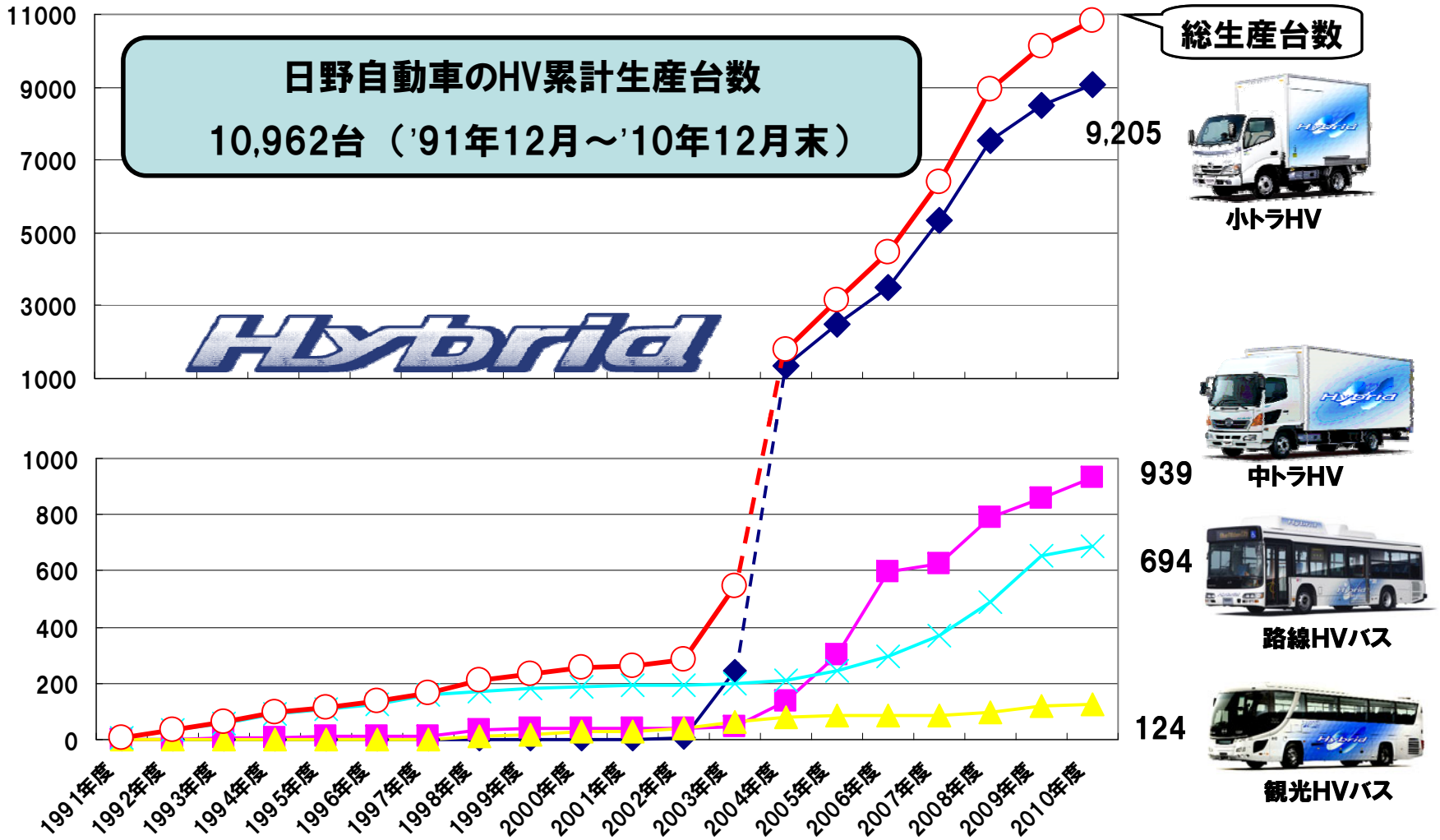


出典：みずほ情報総研(株)「日本における輸送用燃料製造(Well-to-Tank)を中心とした温室効果ガス排出量に関する研究報告書　他

ディーゼルハイブリッドは、CO_2排出量が少なく、燃費効率が高い

＜車種別HV生産台数＞

◆都市内走行が多い小型トラックはハイブリッドニーズが高い

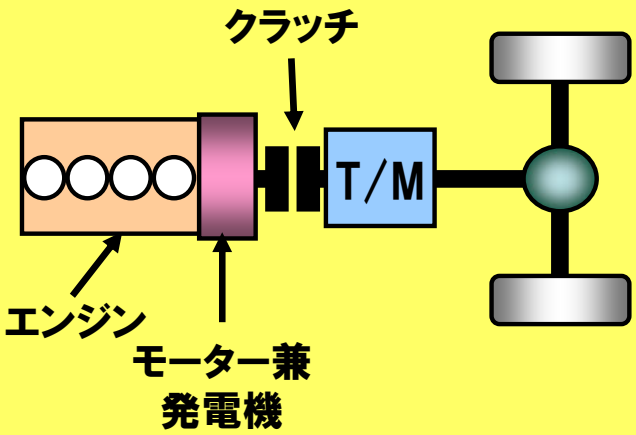


＜新HVシステムの概要＞

◆「性能世界一」を目指して、新型システムを小型トラックに採用

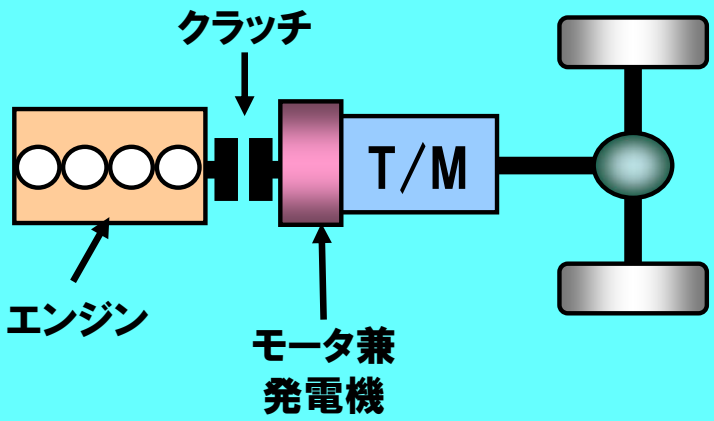
現行システム

モーターをエンジン後端に直結



新型システム

モーターをクラッチ後方に移設



HVに関する技術を全て一から見直し、全てを刷新。

＜主な特長＞

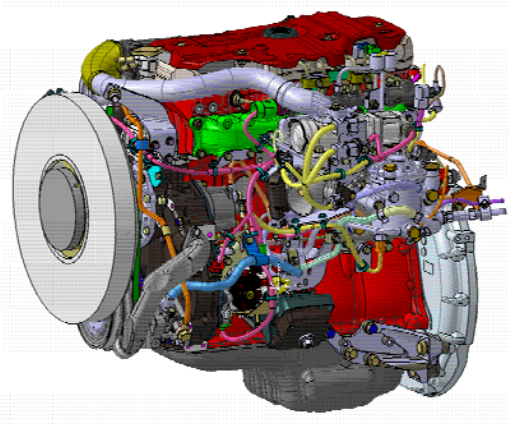
①信頼性の確保

・実績のある乗用車HVと約60%部品共用
（レクサス採用のバッテリー 等）

・HV関連仕入先との共同開発

②先進技術の投入

・HV専用エンジン開発：
HVの特性を生かした最適エンジン



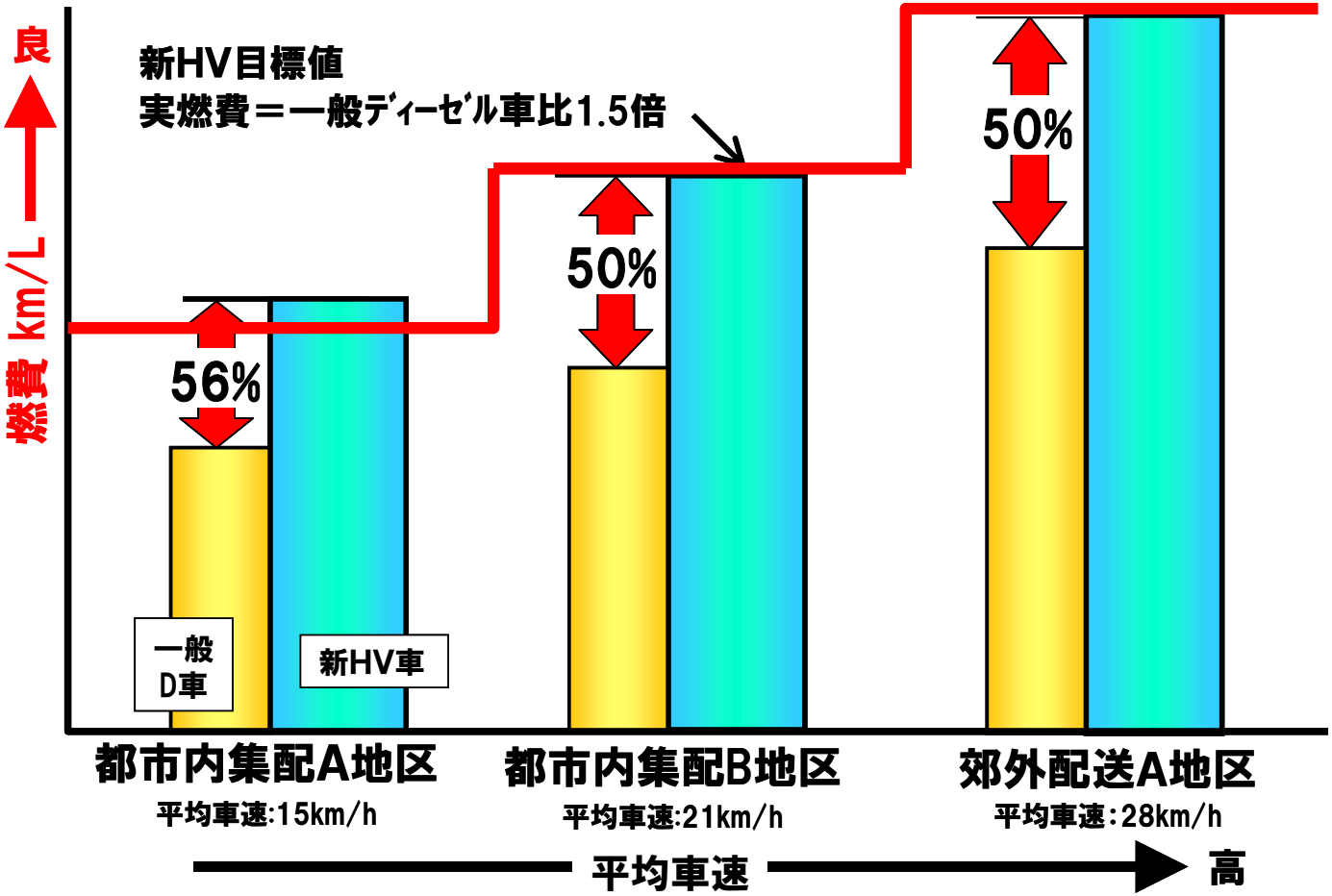
・HV制御新開発：
HV適応制御の採用

世界初！

・HVユニット新規開発：
最新技術投入モーター、インバーター

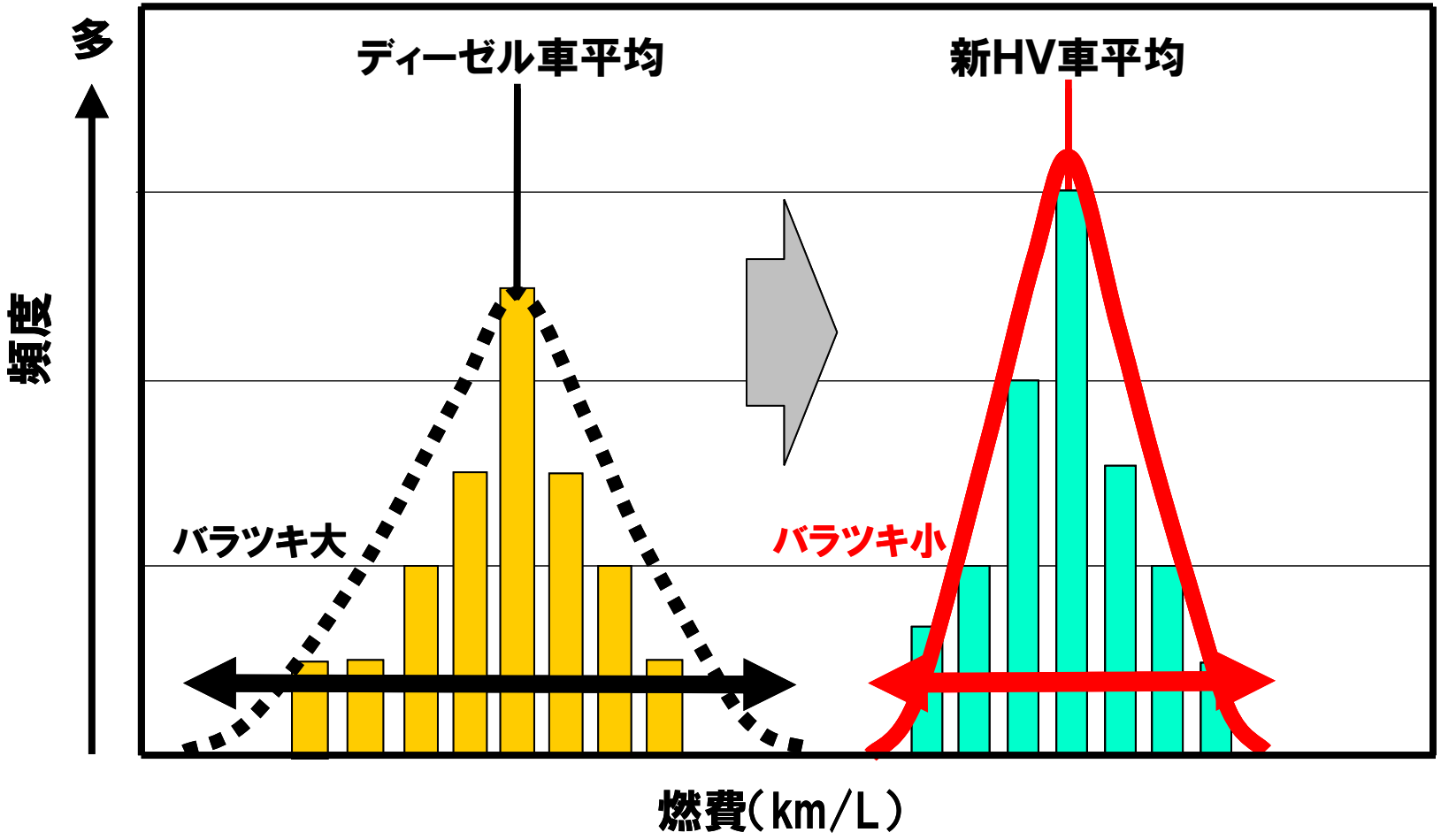
＜性能　社内実験結果①（走行パターン別結果）＞

◆幾つかのパターンで走行した結果、いずれも50%以上の燃費向上を達成



＜性能　社内実験結果②(燃費のバラツキ計測)＞

◆ドライバーや道路状況の違いによるバラツキが小さく、燃費も向上



＜モニター実施＞

2010年11月より、6社のお客様によるモニター走行実施

伊藤園　TRAN'SPORT! COMMUNICATION SAGAWA　SEINO　ALSOK　ヤマト運輸　日本郵便

＜発表時期＞

2011年春(予定)

＜将来計画＞

環境対策戦略車として先進国・新興国で積極的に販売
小トラ販売台数の半分をハイブリッドに(先進国)

人、そして物の移動を支え、
豊かで住みよい世界と未来に貢献する